

岩手の生協の今をお伝えする



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

岩手の生協

VOL.68 2025.8

岩手県生活協同組合連合会

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220-3

☎019-684-2225 / ☎019-684-2227



「第60期通常総会」を開催。全議案が満場一致で採択されました。



大船渡市山林火災支援募金は全国から2億3千万円集まり市に贈呈



憲法・平和・沖縄問題について考え合った「5・3憲法集会」

特集

岩手県生協連 第60期通常総会報告

～ 協同・助け合いの輪を広げて誰もが健康で安心して暮らせる地域づくりを
すすめ、平和と人権、持続可能な地球環境や安全・安心な食・食料を守ろう～

子どもたちに平和で安心できる未来を渡そう！

～憲法を守り、大軍拡反対や核兵器廃絶、学校給食費無償化を求める取り組み～

■会員生協トピックス

- ・消費者信用生協
- ・盛岡大学生協

■岩手県生協連トピックス

- ・大船渡市山林火災支援募金 全国からの2億3千万円を贈呈
- ・政府が責任をもって米危機打開を！いわて食・農ネットが県への請願や宣伝実施
- ・棄権せずに投票に行こう！くらしネットいわてで参院選立候補予定者に政策アンケートを実施
- ・10月29日岩手県消費者大会開催のお知らせ

岩手県生協連 第60期通常総会を開催しました

「協同・助け合いの輪を広げて誰もが健康で安心して暮らせる地域づくりをすすめる、平和と人権、持続可能な地球環境や安全・安心な食・食料を守る」

6月26日、第60期（2025年度）通常総会を開催しました。総会では、「2024年度事業・決算報告」、今後5年間の方針を掲げた「第10次中期計画」、「2025年度事業計画・予算」など、6つの議案が審議され、全議案を満場一致で採択しました。



《第10次中期計画（25～29年度） でめざすもの》

(1) 組合員の共通の願いや地域社会の期待に応え、協同の輪、助け合いの輪を広げることで「誰も

が健康で安心して暮らせる地域づくり」「人にやさしい地域づくり」をすすめる。

(2) 「平和と人権」福祉の充実と健康」「持続可能な地球環境や地域社会」「安全安心な食・食料」を守り、次の世代に引き継ぐために、組合員、会員生協、諸団体の力をあわせる。

(3) 多様な県内の生協事業をすすめていく。岩手県生協連は、会員生協間の協同や連帯を強めるよう支援し、さらに行政や諸団体との関係を強化し、期待され信頼される生活協同組合になるよう役割を発揮する。

《みんなで取り組む重点課題》

(1) 人にやさしい地域づくりや事業、復興支援、健康づくりの推進。

(2) 格差の是正、貧困問題への対応をすすめる。

(3) 平和・憲法・人権を守り、核兵器

廃絶を求める。

(4) 社会保障充実を求め、消費税をはじめ不公平税制や増税に反対。

(5) 灯油の適正価格・安定供給に向けて責任を持つ石油行政を求める。

(6) 食料・食の安全、農林漁業を守り、食料自給率向上に向け取り組み。

(7) 脱原発、再生可能エネルギーへの転換、温暖化防止の取り組み推進。

(8) 消費者行政の充実を求める。

(9) ユニセフ活動の推進。

(10) 生協講座、協同組合講座の開催。

(11) 会員生協の運動・事業・経営に役立つ県連の役割強化。

(12) 行政、諸団体、協同組合との関係強化。

(13) 県生協連や会員生協の活動を多くの県民やオピニオンリーダーに発信。

《当日発言（要旨）》

大船渡山林火災・能登地震支援報告と今後の支援活動連携について



いわて生協
小池佳子代議員

大船渡市山林火災では、けせんコープのこころ委員中心に、汁物の炊き出し等で支援。また被害を受けた方の生活再建に少しでもお役に立てようと、募金活動も実施した。

生活再建には長い支援が必要だが、当面2つを計画している。

ひとつは交流会開催費用の協力。仮設住宅近くで交流会を開催する団体に、お茶菓子等費用の協力をする予定。2つ目は訪問支援活動の協力で、訪問する団体と200世帯余りを一緒にまわる予定。訪問の際に贈呈する調味料セットを提供していきたい。

昨年末に能登支援に行ってきたが、復興というには程遠い状況で、息の長い支援が必要。県内生協の皆さんと協力して、これからも復興支援活動を続けて行きたい。

ゲノム編集食品の表示等生協連と共催した食に関する運動について



生活クラブ生協
菊池江里奈代議員

組合員の約8割が班に所属しているが、高齢や介護等で班長が大変という声もあり、班会開催を呼びかけ、助け合えるよう班のネットワークづくりを推進した。

組合員拡大キヤラバンも活発に実施し、米問題、物価高等で、生産者と繋がる大切さを実感した。

また、食や自然、子育てをテーマにした企画にも参加し、食に関心の高い層や子育て世代へ発信でき、SNSの活用で新たな繋がりもできた。

わかめの芯取り体験等生産者と交流したり、環境の変化等も産直先を通じて学習も行った。

岩手県生協連とは、食の安全学習会を共催することができた。その後、県生協連、県消団連、生産

者団体と、ゲノム編集食品の表示等含めた更なる検討を求める意見書提出の県議会請願に取り組み、採択された。

当生協はゲノム編集食品を扱わないことを決めており、この輪を広げるために加入をすすめていきたい。

ランチ交流会や若年層への利用案内・商品を知ってもらう取り組み



岩手県学校生協
高橋靖浩代議員

現職組合員の減少により、共同購入やファミリー月間といった主力事業が減少。貨物自動車運送事業法改正に伴い、配送費が大幅増加したことで物件費が計画を超え、厳しい決算となった。

その中で、くらし提案として、子育て世代を含む若年層への利用案内や商品を知ってもらう取り組みを継続。育休中の組合員を中心にランチ交流会も実施した。

朝食事情調査に基づき手軽に摂取できる食品提案や、アンケートをもとに特に若い世代の声をどう活かし情報発信していくか、課題として取り組む。

地産地消・農業体験の取り組み、10次中計への賛同と協力について



岩手大学生協
塚原英明代議員

地産地消とフードマイレージ削減で、岩手大学・県立大学2生協で県産ひとめぼれを2008年度から供給している。2023年度からは金色の風を従来のひとめぼれ使用時の価格で提供をし、パッく米を配ってPRもした。

米不足の影響で仕入れ価格が前年度1.4倍に上昇したが、提供価格を据え置きでき、金色の風については、次の収穫時期までの米は純情米いわでの協力で確保することができた。

学生委員会では、今年も田植えや稲刈り企画を開催した。JA職員や農家の方への質疑応答も行い、状況を知れてよかったという声が寄せられた。

今後も学生と生産者をつなぐ取り組みをすすめて、10次中計の「食料・食の安全、農林漁業を守り、食料自給率の向上に向けた取り組み」に寄与していきたい。

加入促進や重要性など共済を周知してもらう取り組み



岩手県立大学生協
本館あゆみ代議員

共済を身近に感じ、食生活や健康に気づいてもらうため、初めてベジチェック企画を実施。自炊する学生に大変好評で、3日間で200人以上が参加した。

受験合格発表後から入学予定者へ向け、何度も説明会を開催し共済の大事さを伝え、昨年より大きく共済加入が伸長した。

怪我や病気の時、入っていて良かったと思ってもらえるよう、これからも継続していきたい。

共済は怪我や事故の給付申請が多いが、近年はメンタルによる不調や精神疾患での受診も増加している。

重度の精神疾患になる前に早めに受診をすすめる「こころの早期対応保障」があるが、昨年度も5件給付があった。

給付件数も伸びるよう、普段から周知活動を活発にしていきたい。

病院・介護施設経営危機や病床削減の懸念。健康チャレンジについて



盛岡医療生協
佐々木徳司代議員

コロナ5類移行に伴い医療機関への補助金がなくなり、経営が悪化。医療報酬・介護報酬改定で、病院、介護施設は、満床・満室でも赤字になるシステムに。全国の病院の7割が赤字を抱え、介護施設の休止・廃止が相次いでいる。

この状況で、保険料負担の軽減のため、全国の病床11万床を減らし、医療費を年間4兆円削減すること、3党が合意。医療費削減の一方で、軍費は拡大。政府の狙いは患者・利用者を家に閉じ込めようとするもので、特に岩手県は健康寿命・脳血管疾患・医師数が全国ワースト・悲観的な状況。そこで、医療生協の出番となる。

健康チェック↓健康チャレンジ↓健診↓受診の健康サイクルを実践し、自分の健康を自分の手で守ることを提起する。会員生協の職場健診や健康チェック、職員・家族・組合員への健康チャレンジの取り組みをぜひお願いしたい。

家計の窮状を訴える相談の現状と困窮者支援等への賛同と協力



消費者信用生協
藤川晋吾代議員

くらしやお金にかかわる相談事業と貸付事業を行っており、設立から56年目を迎えることができました。

年間約1,500件の相談では、約9割は家計の苦しさを訴え、物価高で家計赤字に苦しんでいる相談だった。特にお子様のいる家庭は、子育て費用や教育資金を捻出できないという深刻な貧困状態も多い。

その中で、フードドライブや学校給食費無償化を求める取り組み等は、当生協として非常に心強く感じている。くらしやお金の悩みを解決する相談窓口として、一緒に活動していきたい。

また、貧困問題は経済的困難だけでなく、家庭環境や健康、就業機会等様々な要素が背景にある。専門機関と連携した支援が必要で、今後ともご協力を賜り、貧困格差解消に微力だが貢献したい。

共済の必要性、交通安全、子どもの成長応援、社会貢献活動について



岩手労済生協
高橋満代議員

共済推進、公式アプリ登録・利用促進、社会貢献活動の活動を展開した。

大船渡市山林火災が発生したが、被災者の中には、十分な補償を準備されていなかった組合員も見受けられた。改めて保障の必要性を訴えていくとともに、被災された方への一日も早い共済金支払による再建支援が必要だと感じた。

また、社会貢献活動では、横断旗寄贈のほか、大船渡市の2つの小学校へなわとび・長なわを寄贈した。

「7才の交通安全プロジェクト」に「こどもの成長応援プロジェクト」に加え、新たに「公式アプリ登録1件につき1食分のお米を社会福祉協議会等に寄贈」する取り組みも展開していく予定だ。

《当日発言への理事会からの答弁》



吉田敏恵専務理事

どの意見も自生協の特徴的な話をしてくれた。発言にある各生協の活動が今後もさらに活かされるよう、連携を強めていきたい。また、事業で頑張るだけでは組合員のくらしや権利は守れない。社会の問題を自分事として考えられるよう、学習会は今後も力をいれていき、声をあげて社会に働きかけられるようにしていきたい。

会長理事は 阿部慎二氏が重任

改選後に第1回理事会を開催し、阿部慎二いわて生協理事長が会長理事に重任しました。



子どもたちに平和で安心でできる未来を渡そう！

憲法を守り、大軍拡反対や核兵器廃絶、学校給食費無償化を求める取り組み

●民意は憲法の下で平等であるべき 5・3憲法集会開催

県生協連も幹事団体をつとめる市民アクション岩手の会（9条改憲NO！全国市民アクション岩手の会）は、5月3日に「憲法集会inいわて」を開催。290人（そのうちWEB視聴40人）が参加しました。

当日は、「僕が今、伝えたいこと聞いてくれへんか？」というテーマで、YouTubeバーで芸人の「せやろがいおじさん」が公演。政治や経済、沖縄や平和や人権など社会問題を取り上げ、分かりやすく笑いもとりながら解説し問題提起しました。

会場を笑いの渦に巻き込みながら、軍事基地の集中する沖縄の現状を踏まえ、「尊重される民意とそうでない民意があるのは構造的な差別であり、憲法のもとの平等になっていない」と指摘しました。参加のみなさんからは、「おかしいことはおかしい、と言ってく

れてスッキリ」「涙が出るほど笑ったが、沖縄や憲法への思いも伝わってきた」「難しい言葉ではなく、親しみやすい内容を問題提起してくれてよかった。憲法は今後を守るべき」「沖縄の民意と本土の民意に差はあってはいけないと



感じた」などの感想が寄せられました。

集会後は、会場周辺でピースパレードを実施。「戦争準備より、人権、くらしが大事」「大軍拡も大増税もやめて」などとコールしながら、市民にアピールしました。

●平和に向け官民の外交が重要 九条の会東北交流会開催

5月24日に、「九条の会東北交流会inいわて」（同実行委員会主催）を開催しました。

年1回、東北6県を持ち回りで行っているこの交流会は、今回は岩手（事務局…岩手県生協連・岩手県消団連）が担当し、盛岡市で開催。220人以上（会場120人・WEB100人以上）が参加し、東北各県ではサテライト会場をつくって視聴しました。

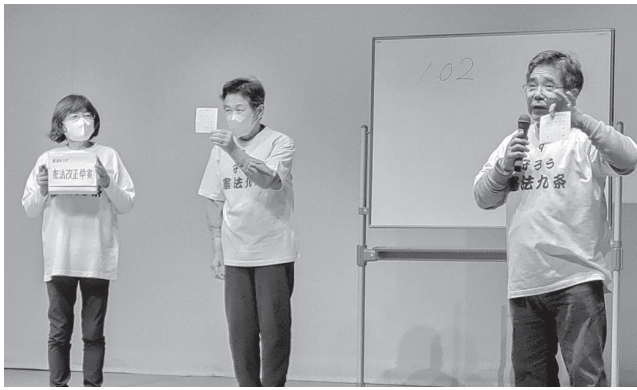
第1部では、猿田佐世さん（弁護士・シンクタンク「新外交イニシアティブ」事務局長）が、「外交で平和を作るとは何か」一人ひ

とりができること」と題して講演しました。

猿田さんは、台湾有事で日本が戦場となるかもと防衛予算を倍にしても、中国の軍事費の2/5にもならない。軍事で対応するのは無理。日本のすべきことは対立緩



和の外交だと説明。政府も市民社会も日常的に協力関係を築くことが緊急時に生きてくると強調し、「回避する道のりがいかに困難であつても、耐え難い戦争を受け入れる困難さは外交による問題解決の困難を上回る。最後まで外交を諦めてはならない」と訴えました。また、外交を重視する政府に変えるなど、トランプ大統領の発言に嘆いているだけでなく市民のできることはたくさんあるのだと話



現憲法と改正草案の違いを学ぶ「憲法ビンゴ」



見逃し配信
https://youtu.be/XjkNqmKqNlg

しました。

第2部では、東北各県からの報告交流を実施しました。岩手からは、都南9条の会が報告。現憲法と自民党の憲法改正草案の概略をビンゴにし、現憲法と比べながら楽しく学べる「憲法ビンゴ」の取り組みを紹介しました。

来年は、福島での開催です。

●学校給食費無償化は公平な支援 岩手の会結成1周年学習会開催

5月31日に、岩手県生協連ほか25団体で構成する学校給食費無償化を求める岩手の会（事務局・盛岡医療生協）の結成1周年学習会を開催しました。

岩手の会共同代表で、NPOインクルいわて理事長の山屋理恵さんが講演。文科省は無償化のための課題整理を昨年12月に発表しているが、今も昭和45年当時の課題整理を使っている、国の価値観は時代にマッチしていないと紹介しました。

また、880万人いる給食対象者の児童・生徒のうち、不登校やアレルギーで給食を食べられない児童生徒も多いので、無償化すると不公平だという声もあるが、「皆が幸せになるよう、その人にあった支援をすることが公平だ」

と指摘。

日本の教育費の公的負担はOECDでは下から3番目の低さで個人の負担が大きすぎていることを説明し、「少子化対策という出生率の事だけで今いる子どもへの対応をしていない。貧困対策こそやるべきだ」と、貧困格差にも触れ、給食費無償化の重要性を訴えました。



《お知らせ》

～どなたでも参加できます～

参加無料

核禁条約批准を求める 岩手の会 結成4周年集会



浅野 英男 核兵器をなくす
日本キャンペーン
ASANO Hideo
JCANW

9月28日(日) 10時～12時
岩手県自治会館第2会議室

内容…浅野英男さん(核兵器をなくす日本キャンペーンコーディネーター)記念スピーチ、トークセッションほか

参加締切…9月19日

お申し込み・お問い合わせ…岩手県生協連



参加申込はこちら



講演の様子はYouTubeでライブ配信致します。

消費者信用生活協同組合

消費者信用生協は、組合員の生活改善・向上を目的に相談と貸付を行う生協として1969年に設立されました。お金やくらしに関わるさまざまな悩みをお聞きし、年間約1,500件の相談をお受けしております。

現在は、多重債務相談をはじめとし、生活困窮を背景とした家計相談、住まいの確保に課題を抱える居住相談、ギャブル依存相談、希死念慮（自ら命を絶つことについての考えや反芻）のある方の電話相談など、相談内容は多岐にわたっております。

信用生協では、そういった複合的な問題を抱える方の相談対応を充実させるため、他の相談機関との合同相談会を随時開催するなど、地域で連携した相談ネットワーク構築に力を入れております。

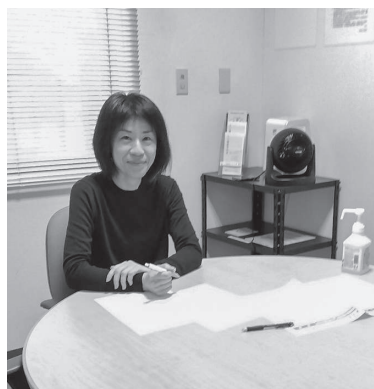
近年では物価高騰の影響から家計改善支援の重要性は高まり、信用生協の役割はより

一層大きくなってまいります。

今後も引き続き、複合的な問題を抱えた方に寄り添いながら、組合員および消費者のくらしの安心安全の向上と確保に取り組んでいきます。

〈ご相談のご予約〉

電話0120-1101-245
月～土（祝祭日除く）
9時～17時



2024年度実績
組合員数 11,529人
事業高 1,655,481千円

HP
<https://www.cfc-ss.coop/>

盛岡大学生生活協同組合

盛岡大学生協は、1989年に設立された大学内の職域生協です。通常は購買店、食堂を中心に学生生活をサポートする、大学ならではの事業を行っています。

学生のみなさんの入学時には、「学生総合共済」への加入の取り組みを行っています。学生総合共済は、万が一のケガとか病気の際の入通院に対して保障を行う共済制度です。掛け金をもとにして、ケガとか病気で困っている学生にお見舞金を送ろう、大学生活を継続してほしい、という願いからスタートした制度です。

学生総合共済の日常活動の中には予防、提案活動もあり、各大学生協では様々な取り組みが行われています。盛岡大学生協でも予防、提案活動の一環として、「ベジチェック」を定期的に行っています。「ベジチェック」という機械を使い、簡単に普段の野菜の摂取量が、数値化してわかりやす

く見えるようになります。この結果をもとに学生、組合員のみなさんの食生活を見直すきっかけにしてもらえようを実施しています。

今回のベジチェックは、盛岡大学のウェルネスセンターが行っている「ウェルビーイングフェア」のブースとしておこなわれました。また、大学の研究室との共催として研究室の学生のみなさんにもお手伝いいただき、3日間合計で459名の学生・教職員が参加されました。

引き続き、学生のみなさんの健康安全をサポートできるようにすすめていきます。



「ウェルビーイングフェア」でのベジチェックの様子

2024年度実績
組合員数 2,309人 事業高 159,047千円
HP <https://www.morioka.u-coop.or.jp/>



「深刻な被害を受けた生業や森林は再生に向け支援が始まったばかり。息の長い支援を続けていきたい」と岩手県生協連阿部会長（左）。

7月10日には、岩手県生協連、大船渡市役所職員生協で測上大船渡市長に目録を贈呈。大変感謝されました。贈呈額のうち、災害義援金に1億円（被災者等への直接的支援）、災害見舞金に1億3,390万円（市が復旧や復興事業）が活用されます。

■大船渡市山林火災支援募金
全国からの2億3千万円を贈呈
2月に発生し、4月7日の鎮火まで市面積の1割に当たる3,370畝を延焼した大船渡市の大規模山林火災。被災者の生活再建や生業再建、大船渡市の復興を支援しようと、岩手県生協連から全国の生協に支援募金の協力を呼びかけました。3月から6月末までに、62の生協・生協連・団体、4個人から、2億3,390万円の募金を寄せていただきました。本当にありがとうございました。



県議会議長に請願書を渡す、食・農ネット荻原会長（右）

■政府が責任をもって米危機打開を
いわて食・農ネットが請願や宣伝
生協や市民団体、労働組合など18団体で構成する「いわて食・農ネット」は、6月27日に岩手県生協連・岩手県消通連とともに、「米危機打開をはかるために政府が米需給に責任をもち、外米輸入の拡大をやめることを求める請願」を県議会に提出、採択されました。

この時点で、都道府県議会段階では、この間の米危機をめぐる問題として初の採択とのこと。米生産の拡大、外米輸入拡大反対、稲作農家への保障などを求める意見書が、県議会から政府へ送られました。

また、6月28日に、「米危機打開に政府は責任を！外米輸入NO！」行動を一関市で実施。かつてない米不足と価格高騰が深刻化している一方で、外米輸入の動きも出ており、農家も今後の展望がもてない状況です。生産を減らしすぎた農政に責任があり、米危機・外米輸入に対する怒りと農政を転換させる世論を広げるため、いわて生協コープ一関コルザ前での署名宣伝と、軽トラパレードを実施。米危機打開の共同を市民にアピールしました。



東磐井・西磐井農民組合による10台以上の軽トラパレードは圧巻。

■棄権せずに投票に行こう！
ネットでは参院選政策アンケート実施
岩手県生協連ほか8団体で構成する、「くらしを考えるネット」いわて（略称：くらしネット）いわて。事務局・岩手県消通連では、7月20日の参議院選挙岩手選挙区

立候補予定者に、消費税、米の不足や価格高騰対策、地域医療や介護、平和問題等についてアンケートを依頼。回答を一覧にして、いわて生協店舗前や、関連団体への配布を行いました。

くらしネットいわては支持政党を持たない集まりですが、有権者に各候補者の政策を投票の参考にしてもらい、個人個人が主体的に判断し棄権せず投票に行こう、と呼びかけました。

《お知らせ》
～どなたでも参加できます～
参加無料

■2025年岩手県消費者大会
10月29日（水）全体会10時半～
分科会13時半～



講演 清末愛砂さん（憲法学者・室蘭工業大学教授）

盛岡市アイーナ ホール他
全体会…「戦後80年～これからも平和であり続けるために～」(仮)
分科会…環境問題、社会保障問題、食、人権・平和、消費者問題、のいづれかを選択ください。
参加締切…10月22日
お申し込み・お問い合わせ…岩手県生協連

